

市長から 市民のみなさんへ 29



山陽小野田市長 白井 博文

新病院局長が就任しました

7月1日付けで、空席になっていた病院局の新局長に河合伸也氏が就任しました。7ページ記事にもありますように優秀な経歴をもち、また素晴らしい人柄の適任者を得ることができ、非常に喜んでいるところです。

河合先生は就任の記者会見で、「二つの病院と職員のマインド(=気持ち)を融合させて、一つの新病院として機能させたい。市民の病院であって、市民の健康をささえる病院であるという意識の定着に向け努力したい。」と述べました。また、先生は、先日、答申された病院事業将来構想検討委員会の案に沿って、改革を進めるとも断言しました。非常に厳しい病院経営の中、気持ちよく大役を引き受けていただいた先生を市長としてしっかりと支えていくつもりです。

もう一つ、病院事業に関連しての案件になりますが、3ページ記事にありますように、6月議会において、山陽市民病院内に設置していた「休日夜間診療所」を廃止する条例案が可決されました。医師不足で、止むを得ない状況となり、特に山陽地区にお住まいの方にはご不便をおかけすることになり申し訳なく思います。しかし、病院局全体としてその責任を放棄したわけではありませんので、万が一のときは、当直医師体制での対応となりますが、小野田市民病院をご利用いただければと思います。

敬老祝金の減額について

当初、厳しい財政状況を踏まえ、職員の人件費削減など"聖域"を設けずに超緊縮型の編成を行った18年度予算案でしたが、その中で議員のみなさんから、「もう少し議論するべき」とご指摘を受け、継続審議となっていました「敬老祝金」の問題が5月議会で決着しました。昨年は、節目の85歳と95歳、そして100歳以上の方に支給していたものですが、それを私は「100歳以上の方のみ対象とする」という方針を打ち出し、当初予

算案に反映させたところ、「削減の趣旨は理解できるが段階的にやるべきものである」という議員のみなさんのご意見をいただき、今年は「支給額は減額するものの対象者は従来通り」と決定しました。(3ページ記事をご覧ください)

十分とは言えませんが、9月中に、お祝い金を贈らせていただきますのでどうぞお受け取りください。

高齢者の方が数多く暮らしていらっしゃる山陽小野田市において、福祉施策の充実は急務であると考えています。国、県の事業と連携を図りながら、市民のみなさんの需要にきめ細かく対応できるよう精査を進め、19年度予算に反映させたいと考えているところです。

新サッカー場がよいよオープンします

7月22日、「県立おのだサッカー交流公園」がよいよオープンします。このサッカー場は5年後の平成23年の山口国体では、少年サッカーのメイン会場として使用される施設です。前回、昭和38年の山口国体においても旧小野田市はサッカー競技の会場となり、それ以来、市内の中学校が全国大会に出場するなど、サッカーの盛んなまちとして知られるようになりました。いつの日かこの新サッカー場から、世界に羽ばたく選手が生まれることを期待しているところです。市長としては、観光資源と絡めて新サッカー場をどのように活用していくか、その手段を真剣に考えていかなければと思うのですが、つつい目先の案件に忙殺され、心の余裕が持てない状態です。サッカー場の有効利用についてアイデアをお持ちの方がいらっしゃいましたら、お気軽にご提案をお願いいたします。

「市長から市民のみなさんへ」についてのご意見、ご感想をお寄せください。

〒756-8601 山陽小野田市広報広聴課
(FAX)83-9336 (E-mail) ki-kouhou@city.sanyo-onoda.lg.jp



7・8月の 対話の日

7月27日(木) 山川公会堂
8月24日(木) セメント町第一自治会館
※19:00から 1時間30分程度です